

第4回大会・研修委員会概要

日時：平成31年2月8日（金）13時30分～17時30分

会場：尼崎市総合文化センター7-4会議室

出席者 辻川委員長、長谷川副委員長、青木委員、櫛原委員、煙山委員、上甲委員、豊見山委員、原田委員、事務局（松岡）

1 開会（事務局）

2 委員長あいさつ

3 協議事項

（1）平成30年度事業報告・決算見込、平成31年度事業計画・予算案について

- ・それぞれ事務局より説明した。平成31年度予算案を2,880千円とすることとした。

（2）平成31年度委員体制について

- ・平成30年度をもって現委員のうち櫛原委員、上甲委員、および第43回大会開催地である原田委員が退任する。また、煙山委員等の調整により、新井浩文氏（埼玉県立歴史と民俗の博物館）、蓮沼素子氏（大仙市アーカイブズ）から平成31年度の委員就任の内諾を得たことが報告された。煙山委員は委員を退任して次期は事務局を担当し、前事務局の立場から松岡弘之（尼崎市立地域研究史料館）に委員を委嘱することを確認した。なお、第46回大会開催予定地である東北大学からの就任予定者は今後調整することとした。長谷川副委員長・青木委員・豊見山委員は留任する。

（3）第44回全国（沖縄）大会について

- ・大会当日のアンケート集計結果（別途公開予定）について、事務局から報告し、意見交換を行った。

ア 研修について

- ・研修会A…A班・B班という名称が分かりにくいという声があった。全体受付前で大会冊子など持たないかたちで訪問していることに配慮する必要もある。
- ・施設見学については、研修会Aとせず、「視察研修」「研修（施設見学）」等の名称とする方がわかりやすい。参加者が参加目的を所属機関に説明する際などのことを考えると、研修という名称は残した方がよいであろう。
- ・その他の研修会…各研修と大会テーマとの関連性を毎回追求できているわけではないが、4つの研修会のうち2つを沖縄にお願いし、アンケートでも好評であった。
- ・入門編については、初任者のための本来的な研修としての位置付けをあらためて確認し、アーカイブズ理論（概論）を具体例を織り交ぜて十分講義できる講師を選する

(大会・研修委員 OB など、具体的人名もあげて意見交換した)。

- ・ 入門編と同じ時間帯に別会場で行う研修について、入門編に対するステップアップ編とするなど、研修プログラムにめりはりを付ける工夫も検討してはどうか。
- ・ 研修講師に対して、企画者の意図を十分説明することの必要性を、あらためて確認した。

イ 大会セレモニー、調査・研究委員会報告について

- ・ 大会セレモニー…開催時間帯は再考の余地がある。来賓挨拶等が閑散とすることは好ましくなく、開会をはっきりさせる意味からも初日夕刻ではないほうがよい。初日午後の研修が始まる前に持ってきてはどうか。会員表彰は好評であったが、表彰理由の説明があれば、経験が浅い参加者にとってなお良かったと思われる。
- ・ 調査・研究委員会報告…現状は大会がアンケートの中間発表の場となっているが、2年間の調査・研究の最終発表になればよいという気持ちもある。もともと、調査・研究委員会のスケジュールとしては難しいのも事実である。今年度は特に災害が多発し、調査・研究委員会は大変繁忙であったと思われるが、テーマもあわせて委員会活動が災害に特化したかたちになったのではないか。

ウ 大会テーマ研究会について

- ・ 3 報告とコメンテーター2 名という構成で、ディスカッションを設けることが難しかったが、会場の参加者が議論にまったく参加できない形となったことは、やはり好ましくなかったと考えられ、反省点とする必要がある。また、質問を取らないことをはっきりお伝えするなどの配慮も必要であった。
- ・ 相模原大会で実施した質問票をとる形式は、壇上での整理が大変になるが、参加者が意見を出し満足感を得られるという点ではひとつのやり方といえる。ただし、今回のテーマは質問票を取りにくいものではあった。
- ・ テーマ研究会の各報告は内容的に充実していたが、各報告及び最後の討論の内容・結論と、大会テーマ設定との関連性が必ずしも明確ではなく、参加者にとって不満が残る部分もあったと考えられる。結論やシナリオを運営側が決めて大会に望むのは良くないものの、シナリオがないという点では議論が収れんしがたくなってしまいう点があり、質問票形式での会場からの参加実現も含めて、今後よく考えてテーマ研究会を設定・準備する必要があるであろう。
- ・ アンケートのさまざまな感想をみると、問題提起としては良かったのではないか。議論がマスキングなどテクニカルな話になってしまうのは惜しまれるが、デジタルアーカイブ構築も理念が無ければならないということは再確認できた。

エ ポスターセッション、運営等について

- ・ポスターセッションは研修会場に隣接していたため好評であった。
- ・研修担当の割り当てが一部委員に偏ってしまった部分があった。
- ・会場の案内・マイク音声については、施設運営者との連絡調整や事前確認を充分に行う必要がある。各研修の担当者が、司会進行役と会場・補佐役の双方とも、音声や会場の温度、画像の投影など、参加者が受講しやすい会場環境について注意を払い、研修実施中も必要に応じてすぐに対応・改善するよう、あらためて確認しておくことが必要である。
- ・沖縄県文化振興会から多くの応援をいただいたが、次回開催地の安曇野市をサポートできる仕組みを考える必要がある。態勢・予算規模など開催地ごとに事情はことなるが、業務内容など引継ぎを適切に行う。時間帯・業務を限定して、参加する会員から手伝いのボランティアを募ることも、検討の余地があるのではないか。

(4) 第45回全国（安曇野）大会について

- ・青木委員より資料の提出があり、現時点の準備状況、大会テーマ案や課題などについて説明があった。
 - ・長谷川副委員長より資料の提出があり、大会テーマの方向性や長野県内の状況について説明があった。
 - ・安曇野大会が、長野県内で文書館設置の動きが活発であることを全国に発信する一方、全国の良い事例を長野県内に紹介できるものとなるようにしたいと考えている。また、安曇野市文書館設立を市民が支援したこともあり、市民が参加できる記念講演会のようなものをプログラムに盛り込みたいと考えているとの説明があり、記念講演の企画・講演者等について具体的に人名をあげて検討した。
 - ・地域社会の危機的な状況や生涯学習のあり方など、現代的課題に文書館がどう応えていくかについて、長野の蓄積や事例から学ぶことができるのではないか。
 - ・公文書か地域資料かではなく、自治体全体として公文書館に何を託し、全体でどのように機能分担がされているかが重要であろう。当該地域・自治体が、地域社会全体としての自治と学びの場の設定や、地域資源・歴史資料のトータルな保存・活用の枠組みをプランできているか、そのなかに文書館・公文書館がきちんと位置付けられているかという視点で、大会テーマ・内容を設定していけばよいのではないか。
- プログラムのなかに、記念講演会の要素を設けることを確認し、次回委員会に向けて具体的な人選と打診を早急に進めていくことを申し合わせた。

(5) その他

- ・平成31年度第1回委員会は、新委員の日程を確認し、5月に秋田県公文書館で開催する。

(終了)